

University  
Current  
Review

ISSN 0288-1748 2020(令和2)年 5月20日発行 [隔月刊]

[特集]  
大学間による学生交流(国内留学制度)の  
現状と課題

# 大学時報

NO.392  
2020. **05**



# 成城大学



採集手帖

## 採集手帖

成城大学民俗学研究所柳田文庫には、「採集手帖」と呼ばれる200余冊の手帖が収められている。通称「山村手帖」「海村手帖」「離島手帖」(この他に「食習手帖」も所蔵)と呼ばれるこれらの手帖は、昭和9年から14年、25年から28年にわたって柳田國男の主導で行われた一連の共同民俗調査に用いられたもので、活字の質問項目と、調査者手書きの調査報告で構成されている。特に「山村手帖」「海村手帖」は、全部で100の質問項目を立て、手帖を携えた調査者が、一律の規格の調査を日本各地で行い、全国の民俗を比較することが企図されている。

調査者によって柳田に提出された手帖は、質問項目ごとに分けて全国を通覧できるように整理され、「山村生活の研究」(昭和12年)、「海村生活の研究」(昭和24年)といった報告書にまとめられた。

民俗学は、日本各地に持ち伝えられてきた伝承

を記録し、その背景にある心意をさぐる学問である。「採集手帖」は、昭和初期の村里の生活の様子を知る資料であることはもちろん、それらの土地が、その後どのように変化したのかを知るための重要な材料となる。成城大学民俗学研究所では、「採集手帖」をゼロポイントとして、各地の現在に至るまでの状況を定点観測的に追跡調査し、空間と時間を縦軸と横軸に置いた研究成果を蓄積している。

この「採集手帖」の100番目の質問項目には「仕合せ(幸せ)のよい人又は家の話があるなら承りたし」とある。農政官僚時代、自身の目的を「国民総体の幸福」に置いた柳田が目指す、経世済民の学としての民俗学のあり方を表しているといつてよいであろう。「採集手帖」に書きとめられた昭和初期の情景は、単なる記録のみならず、「国民総体の幸福」に寄与するための伝承として、今後も光を放ち続けていくであろう。

# 大学時報

2020.05/NO.392

CONTENTS

62 58 54 48 46 | 44 | 42 36 28 24 18 16 | 10

だいがくのたから 成城大学

大学点描 東京経済大学

巻頭言 創立120周年を迎えて 岡本英男

視点 良医育成に徹底して取り組む医科大学 野口光一

### 特集 大学間による学生交流(国内留学制度)の現状と課題

教育改革の柱としての派遣学生制度

―全国初の単位互換を開始した沖縄大学― 仲地博

立地地域や設置形態の違いを超えた連携

―山形⇄神奈川 複眼的視点を持つ人材育成を目指して― 福元摩湖

うどん県住みます学生プロジェクト

―地方(香川大学)と東京圏の大学(芝浦工業大学、

津田塾大学、東京農業大学)による高度人材育成事業― 八重樫理人

「国内留学」の課題と今後

―学修成果の可視化の観点から― 猪股星慧礼/甲斐田昌太郎

派遣人数不均衡の解消策

―早稲田大学と同志社大学の学生交流の事例から― 大島佳代子

### ずいそう 法人合併 林正夫

### 小特集 大学専用アプリによる情報の発信

学生支援部署におけるアプリ活用の取組 中尾匠吾

学生が創る大学公認アプリ「KSU」 田中康一郎

卒業生との「つながり」を再び

―キラーコンテンツによる寄附拡大の可能性― 藤元健史

目から鱗が落ちる活用法―アサーティブアプリの可能性から― 志村知美

## 表紙：キンミズヒキ

バラ科の多年草。黄色い花穂を金色の水引に見立て、「金水引」と名付けられました。日本各地の山や平地で生育し、夏から秋にかけて花をつけます。表紙のとおり、実の表面にとげがあるのが特徴で、動物や衣服に付いて種子を散布します。これを、ひつつき虫、くつつき虫と呼ぶこともあります。

\*大学時報は2020年5月号よりリニューアルしました。  
表紙デザインでは教育・成長・向上を植物になぞらえ、1年間でさまざまな種を紹介します。

100 98 97                      94                      93                      92                      |                      90 88 86                      |                      80                      |                      78                      |                      72 68

寄稿 新型コロナウイルス感染症とそのリスク評価 岡田晴恵  
寄稿 私立大学のガバナンス向上に有効な内部通報制度  
— 内部通報制度に関する認証制度の活用を考える —

公益社団法人 商事法務研究会 内部通報制度認証事務局

### 私の授業実践〜教育現場の最前線から〜

看護師基礎教育における「シミュレーション教育」の取り組み 納谷和誠

### 明日への試み

西南学院大学外国語学部 新たな伝統を築くエネルギー 伊藤彰浩

### 加盟校の幸福度ランキングアップ《セラピー編》

心理学科でのアニマルセラピーの試み 渡邊力生  
死と悲嘆から生きる意味を捉え返す上智大学グリーンケア研究所 島蘭進  
通信教育課程 児童学科でアートセラピーを導入する意味 小野京子

### 新加盟大学・新加盟大会員代表者紹介

九州産業大学

### 新会員代表者紹介

同志社大学／明治大学／芝浦工業大学

### 新学長紹介

大東文化大学／フェリス学院大学／宮城学院女子大学／  
名古屋学院大学／追手門学院大学／昭和女子大学

### 私大連TOPICS

執筆者のご紹介（掲載順）

私大連ニュース

102 編集後記

東京経済大学は  
2020年、創立120周年を迎えます

東京経済大学は、2020年に創立120周年を迎えます。東京経済大学の前身、大倉商業学校の創立者大倉喜八郎は、明治・大正期に日本経済の基盤となる貿易、建設、交通、観光・娯楽、製造などに関わる200以上の企業を設立したチャレンジ精神あふれる実業家です。彼の座右の銘である「進一層」の精神（困難に出合ってもひるまず、なお一層前に進む）と「責任と信用」を建学の理念に掲げ、これまでの伝統を活かしながら革新を続けます。



## 「アカデミズムに裏打ちされた実学教育」を通じて チャレンジ精神と高い倫理性をもつ有為の人材を育成

実学とは、個人や企業、地域社会やグローバル社会が抱える課題を発見し、望ましい方向へと改革していくための道筋や方法を考えることです。そのような問題意識と洞察力は、深い教養と専門知識を基盤として、毎日の考える訓練により鍛えられます。それは、パソコンなどのスキルや資格を習得することよりも奥の深いもので、現代社会を生き抜き、未来の社会をつくるための実践的知性です。課題を発見し、ものごとの本質を捉える思考力は、簡単にAIに代替されることはありません。大倉商業学校では簿記と英語の教育に力を入れましたが、21世紀の東京経済大学は複雑化する現代社会で必要とされる実学を目指します。

# 東京経済大学

## 自ら学ぶ、 ゼミする東経大

ゼミは学生自身が主体的に学び、成長を実感できる場です。東京経済大学では、4学部の専門ゼミと総合教育系ゼミをあわせて約150のゼミを開講しています。専門ゼミでは、経済・経営・コミュニケーション・法学の専門知識を踏まえて、社会における諸課題を発見し、学生自身が自分の眼で分析したり、解決策の提案を行ったりします。総合教育系ゼミでは、人文・社会・自然・情報科学、語学、スポーツなどの広い分野にわたって私たちの生きている世界の多様性を学び、過去・現在・未来を理解するための教養を深めます。ゼミの研究方法は多様で、文献講読や個人・グループでの論文作成に加えて、フィールド調査やデータ分析、海外研修、地域コミュニティや企業との共同研究などが行われています。また、専門ゼミと総合教育系ゼミを同時に履修できることも、本学の特徴です。



## 東京経済大学の「教育力」

東京経済大学の教育システムは3層構造で、社会で幅広く活躍する基礎を磨く「ベーシックプログラム」、深い教養と高度な実学を身につける「学部・学科教育」、さらに専門分野のスペシャリストを育成する「アドバンスプログラム」から成ります。併せて、専門分野の枠を超えた幅広い教養を養い、変化の激しい時代を生き抜くための想像力や発想力、実践力を身につけるための語学や自然科学などの総合教育科目も充実しています。1年次に4学部の入門科目を学んで関心の高い分野を発見し、2年次から学部にも所属するキャリアデザインプログラムは、4年間にわたる体系的なキャリア教育と学部横断的な学びを取り入れたカリキュラムとなっています。

高度な資格や語学力を習得  
アドバンス  
プログラム

専門分野を学ぶ  
学部・学科教育

- 経済学部 [経済学科/国際経済学科]
- 経営学部 [経営学科/流通マーケティング学科]
- コミュニケーション学部 [コミュニケーション学科]
- 現代法学部 [現代法学科]
- キャリアデザインプログラム

社会人としての基礎力を身につける  
ベーシックプログラム



建学の理念

「進一層」

Forward Forever

「責任と信用」

Be Honest and Responsible Citizens

東京経済大学

University Current Review

# 大学時報

2020.05 / NO.392



## 創立120周年を迎えて

岡本 英男 東京経済大学学長

本学は、一代にして財閥を築き上げた実業家大倉喜八郎が1900年に赤坂葵町に創設した大倉商業学校を淵源とし、今年で創立120周年を迎える。その建学の理念は、世界共通の商業知識を身につけ、世界を相手に商業活動を行うという「堅実な品性」を有する経済人を育成するところにあった。

本学は、このような旧大倉商業学校以来の歴史と伝統の上にたち、「進一層」の気概を持ち、「責任と信用」を重んじ、実践的な知力を身につけて地球社会のあらゆるところで活躍しうる人材の育成をはかっていきたい。

# 良医育成に徹底して取り組む 医科大学

## 1. 兵庫医科大学について

大手情報誌の「住みたい街ランキング」などで常に上位にランクインされる兵庫県西宮市。大阪梅田まで電車で15分、神戸三宮まで25分と非常に便利で、若者にも人気の立地である同市の南東、武庫川の河畔に本学は開学した。1972年のことである。当時、創立者の森村茂樹先生が掲げた高邁な建学の精神は、「社会の福祉への奉仕」「人間への深い愛」「人間への幅の広い科学的理解」。本学ではこの精神をもとに、今もなお、人間への深い愛情を持ち、かつ科学的な観察・理解に基づきながら、社会への福祉に奉仕できる医師を育成している。既に4000名をはるかに超える有為な医師を輩出しており、京阪神地区はもと



創立者 森村茂樹

より、全国で患者さんに優しい全人的医療を実践できる良医として高い評価を受けている。また、兵庫医科大学病院は、良き医療人育成のための医学教育に

野口光一  
兵庫医科大学学長



最大限の貢献を行いつつ、災害拠点病院・地域中核病院として非常に高い評価を受けており、「関西圏トップクラスの医療機関」として質の高い医療を地域住民に提供している。あと2年で開学50周年、医学教育・研究・臨床のいずれにおいても、より高い評価を受けられるよう努力していきたい。

## 2. 学生への動機づけ教育

医学教育プログラムはこの10年から20年で大幅に変化し、我々が医学部学生であった時代とは全く異なるものとなっている。本学においては、入学後の半年間でいわゆる教養科目を学び、その後は医学専門課程の科目がスタートする。我々が学生だった当時は2年間の教養課程があったことを考えると、専門課程の期間が大幅に延びたことがわかる。私が専門とする解剖学教育の一つである人体解剖実習は、1年次の3学期に行うため、「早くから医学の専門教育を行う」という大きな利点がある。しかしその一方で、高校を卒業して間も無い精神的に未熟な学生が解剖実習をはじめ

とする膨大な医学知識を習得する際には、いくつかの問題点が生じている。「医学部に入学した途端に学ぶ意欲を失ってしまう学生が一定数いる」というのは、全国の医学部共通の悩みなのかもしれない。本学におい



教育研究棟 ラーニングスクエア

ても、医学部に入学しながら、医師をめざすための厳しい勉学に対する動機や覚悟が弱い学生をいかに鼓舞できるか、真の医学生に育てられるかが大きな課題となっている。

そうした医学・医療への動機・志向を高めるために、本学では複数のプログラムを導入している。医師をめざすモチベーションを刺激するため、1年生の早い段階でできるだけ医療や介護の現場に触れる機会を設け、OBの開業医を訪問するなど、めざす医師像を自分の中でしっかりと構築してもらうことが狙いだ。また、「エスコート」実習では新規患者に付き添い、診察や検査など1日を共に過ごすのだが、学生が患者さんから励まされることも多く、医学生の動機づけには貴重な実習となっている。

### 3. きめ細かな医学教育サポート体制

前述のとおり、現在の医学教育は我々が医学生であった数十年前とは全く別物となっている。学ぶ量が数倍となり、カリキュラムの構成も別次元で、3

年次から臨床医学の勉強、4年次からは臨床実習が始まる。見学型のポリクリを5年次からのんびりで行っていた我々の時代とは違い、臨床スタッフの一員として患者さんに接し、病棟で学ぶ臨床実地型のスタイルになっている。十数年前より臨床実習開始前に全国共用試験という医師国家試験の簡易版が導入され、客観的臨床技能試験や医師としての態度・倫理教育など、今の医学生は本当に忙しく大変である。

こうした忙しい医学生の学びをサポートするために、本学の「医学教育センター」には4名の専任教員と十数名の兼任教員を配置している。同センターでは、メンタルに問題のある学生や成績不良者の個別指導を徹底的に行っており、特に高学年の学生の医師国家試験対策では学生個人の状況に合わせてベストの指導ができるよう配慮している。その成果として、この十数年、医師国家試験が完全に競争試験になって以降は安定して好成績を残すことができています。特に結果に結びついているのが独自に作成する総合試験問題だ。過去問は一切使わず、すべてオリジナルで出題するため、国家試験に臨む学生の実力を高い確率

で事前判定できていると自負している。臨床教員の負担はかなり大きいですが、成果に直結することが判ったため、全教員が熱心に協力してくれているのが本学の強みである。

#### 4. 今後の教育改革の方向性

私が学長になった4年前より、種々の教育改革に取り組んできた。入口となる入試制度改革では、一昨年度よりセンター利用入試を廃止し、外部の英語試験成績を採用。さらに、2次試験では本学独自の試験を課している。私立医大のセンター試験利用というのは、基本的に2次試験は面接だけで、ほとんど大学入試センター試験の成績で決まっているのが実情であり、結果的に国公立医学部の入学試験に比べて軽量入試になっていた。そこで「基本的に本学教員が作った問題で学生を選抜したい」という考えで入試を改革したわけである。

卒前の医学教育改革は、前述したようなきめ細かな学生指導、臨床実習の実質化、臨床技能や態度の

育成を主眼として、カリキュラム全体を改良していきたい。一方で、今後最も重要視しているのが、卒業教育体制の改善だ。初期臨床研修内容の改善は、今後医学機関としての本学の評価を上げるためには極めて重要である。国家試験に合格しても終わりではなく、初期研修医として多数の優秀な学生に選ばれるプログラムにする必要がある。優れた初期研修プログラムによつて、実力があると同時に医師としての倫理観にあふれた良医を育てることが、これからの兵庫医科大学における極めて重要なテーマだ。充実した初期研修プログラムは見学型からの脱却が重要であり、さらに、卒前教育と卒業教育が内容的に連動して、全身的に一つのカリキュラムになっているかという観点も重要である。

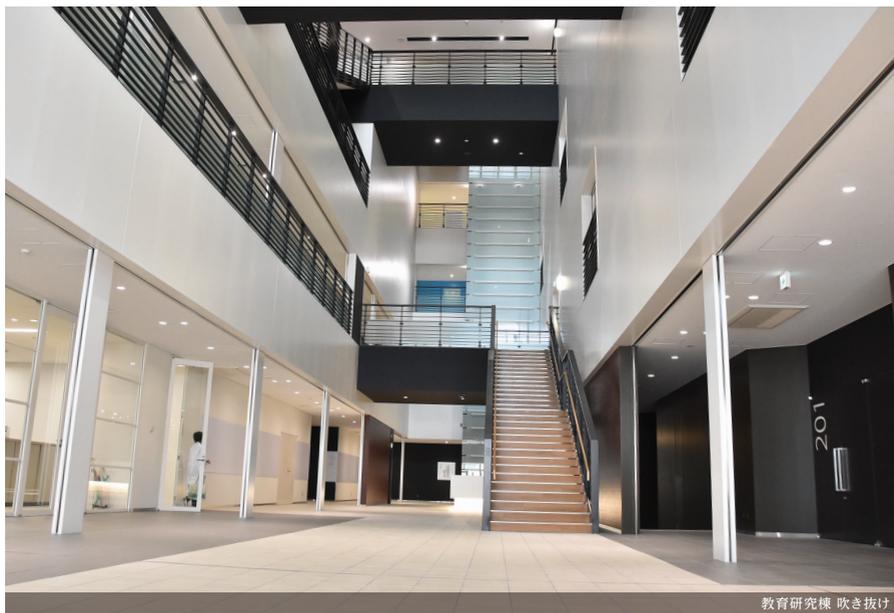
## 5. 大学としてのブランド力の向上

大学が大学たるゆえんである研究活動に関しては、医学研究科の体制整備を進めてきており、この10年間、各講座任せであった従来の体制からの脱却を進め

てきた。開学以来、研究に対しては経営陣の理解が深く、支援体制も充実しており、新設の私立医科大学としては優れた研究成果を上げてきたと自負している。しかしながら、外部研究資金獲得競争の激化、研究に対する人的・金銭的サポートが日本全体として漸減している中で、本学のような単科私立医科大学が、いかにして基礎的および臨床的研究において質や独創性の高い研究を展開できるかは大きな課題である。「大学院生のお大半が医師としての業務を兼ねている」という医学系大学院特有の問題もあり、その上で問題解決をするという困難な課題も残ったままだ。

最近、英国の教育専門誌が発表した「THE世界大学ランキング日本版2020」で、本学は教育リソース部門で国内6位、私立大学では1位にランキングした。同ランキングによると、教育リソース部門は、学生一人当たりの資金や教員比率などのデータからどれだけ充実した教育が行われているか、および教員一人当たりの研究成果といった2つの観点から算定されているそうだ。これらの高い評価を今後とも継続していきたいと考えている。

今後の大学の発展方向性については、都市部に存在する単科私立医科大学の特徴を生かし、本学の学生の特徴を的確に把握した上での「医学教育体制の改革と充実」をはじめ、「大学病院におけるしつかりとした臨床研究支援体制の整備」「特徴のある研究成果の創出」「診療体制・設備等の充実と患者サービスの改善による診療面での一層の評価向上」「あらゆる組織の効率的運用を図り、種々の改革を支える財務の改善」をめざしていきたい。また、こうした大学全般のレベルアップを図ることにより、学生や教職員、卒業生を含めた大学関係者全員の帰属意識を高めていきたいと考えている。



教育研究棟 吹き抜け